



Kogakugiken Corp.
CSR報告書 2015

目次

01	目次・編集方針
02	トップメッセージ
03	会社案内 / 会社概要 / 事業内容
04	行動規範
05	CSRの取り組み
	● 倫理・コンプライアンス基本方針
06	・CSR推進体制、CSR教育
07	品質・環境に対する取り組み
	● 品質・環境統合方針
08	・事業における環境とのかかわりと環境負荷
09	● 品質・環境推進体制
	・品質・環境推進体制図、ISO委員会、ISO推進委員会、 内部監査の実施
10	● 2015年度 品質・環境活動の実績と今後の目標
	・品質目的・目標とその達成状況、環境目的・目標と その達成状況、環境維持活動の実施状況
	・2016年度 品質目的・目標、環境目的・目標
18	● CO2排出量抑制、生物多様性保全の取り組み
	・CO2排出量、CO2排出量削減・生物多様性保全の 取り組み状況
19	保安防災に対する取り組み
	・緊急事態への対応、防災訓練の実施、火災発生に対する 備え
20	労働安全衛生・人権に対する取り組み
	● 労働安全衛生方針
21	・安全衛生活動の推進、労働災害件数の推移
22	● 人事基本方針
	・働きやすい職場づくり
23	化学物質管理に対する取り組み
	・化学物質の管理、法規制・お客様の要求事項、CSR調達 への対応、環境面に配慮した製品の開発、販売促進
24	製品・サービスの品質と安全、情報セキュリティ
	・品質管理、安全管理のための方針と体制、情報セキュリ ティ、加工・測定環境の整備とサービス・品質保証による 高付加価値
25	社会とのかかわり
	・国内外の展示会への出展状況、CLASPへの協力、その他 の活動

編集方針

当社は2007年度より毎年「環境報告書」を発行してまいりました。2011年度からは名称を「CSR報告書」と改め、CSRの観点を含めた報告内容を年々追加し、情報開示の充実化に努めております。記載項目に関しては、図、表、写真をできるだけ使用し、わかりやすい内容となるよう心掛けました。本報告書により当社のCSRに対する取り組み状況を皆様にお伝えするとともに、皆様との重要なコミュニケーションツールとして活用できればと考えております。

報告書の情報開示

本報告書は当社HPにてPDF版を公開しています。HPでは当社に関する様々な情報を記載していますので是非ご覧下さい。

当社HP: <http://www.kogakugiken.co.jp/>

報告書の対象期間と範囲

対象期間:

2015年4月1日～2016年3月31日

対象範囲:

本社

長谷事業所 長谷研究開発センター

次回発行予定

2017年5月～6月

報告書の作成部門及び 質問、お問い合わせ先

株式会社光学技研 品質管理部
〒243-0033

神奈川県厚木市温水135番地

TEL.046-225-6711

FAX.046-225-6681

トップメッセージ

事業活動を通じて
社会課題の解決に
貢献します



事業活動とCSRのつながりを強化し、光学技研の持続的成長と地球環境問題の解決に向けて取り組みます。

光学技研は、結晶やガラス素材の高精度加工技術を軸とした「モノづくり」企業です。1977年の創業以来、高付加価値な加工の提供を通じて、お客様の研究開発等を支援してきましたが、今後も持続的な成長を果たしていくためには、技術面だけでなく、CSRをより一層充実させていくことが必要と考えております。

当社では、ここ数年CSRと業務の結びつきを強め、お客様が求める高品質・高付加価値な製品、サービスを提供するとともに、従業員の満足度の向上及び環境負荷低減等に努めてまいりました。この取り組みを継続し、近年の国際社会が抱えるさまざまな課題、特に持続可能な資源の利用、気候変動の問題、生物多様性保全と生態系の保護などの地球環境問題の解決にもできる限り貢献していきたいと考えています。

中期経営計画である「Next K Plan II」に基づいて事業活動を展開し、CSRを含めた総合力を高めます。

2015年度は、中期経営計画である「Next K Plan II」の2年目にあたります。「Next K Plan II」では、売

上高の目標の他に「次世代に向けた経営基盤の整備」を掲げ、各部門において重要課題である「基盤技術の充実と開発力の融合」、「業務改善促進によるコスト削減」、「保有財産の有効的活用」、「未来志向に基づいた人材育成」に取り組んでいます。2年目の結果は1年目の前年度に引き続き、目標値を下方修正するなど厳しい結果となりましたが、次の成長へのステージに向けた活動を確実に実行し、最終年度となる2016年度に良い形でつなげていきたいと考えています。

当社を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、その環境の変化にどう対応していくかが課題となっておりますが、このような状況だからこそCSRを含めた総合力を高める必要があります。そのためには各従業員が当社のCSRの考え方を共有し、事業活動を通じてお客様や社会に対して、当社らしい価値を提供し続けることが重要であると考えています。この考え方を基本として今後も社会に貢献する企業を目指してまいりますので、皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社光学技研
代表取締役

岡田 幸勝

■ 会社案内

■ 会社概要

会社名	株式会社 光学技研 (英文社名) Kogakugiken Corporation
本社	〒243-0033 神奈川県厚木市温水135番地 TEL 046-224-2555 (代表・営業部) FAX 046-224-8007
事業所	長谷事業所 長谷研究開発センター 〒243-0036 神奈川県厚木市長谷260番地28 TEL 046-250-5700 FAX 046-250-5711
設立	1978年 6月 1日
資本金	5,000万円
代表者	岡田 幸勝
従業員数	56名(2016年3月現在)



本社



長谷事業所
長谷研究開発センター

■ 事業内容

1. 光学製品の設計・開発及び製造
2. 光学結晶及びガラス部品の試作加工



経営理念

独自の技術を開発し、既存の技術をも国内外のトップレベルとし、お客様に満足して頂ける総合的なバランスの良い会社を目指します。

ビジョン

- 結晶加工技術で圧倒的な優位を維持し、そうしたニッチ市場で極めて高いシェアを誇るトップ企業となる。
- 顧客満足を向上させ、社員も十分に満足できる収益を上げるとともに、倫理、人権、環境等の各面で社会的企業責任を果たしうる企業となる。
- スピーディな対応を行うとともに、高品質を追求し利益と価値を生み出す技術力を構築する企業となる。

■ 行動規範

当社は「社会の一員」としてその事業活動において社会の要請や期待に応えるため、2011年9月に「株式会社光学技研 行動規範」を制定し、公開しています。

「株式会社光学技研 行動規範」

私たちは、当社が掲げる「経営理念」並びに「目指しているビジョン」を実現するために、1人ひとりが遵守する「行動規範」を次のように定め、社会から信頼を得る企業として成長し続けるように努めます。

1. 基本事項

(1) 人権の尊重

私たちは、1人ひとりの人権を尊重します。

(2) 法令の遵守

私たちは、法令を遵守し、違法行為を行いません。

(3) 社会とのコミュニケーションの促進

私たちは、社会の声に積極的に耳を傾け、「開かれた企業」として社会とのコミュニケーションの促進をはかります。

2. お客様からの信頼獲得

私たちは、お客様の要望に応えた安全で良質な製品を提供できるよう努めます。

3. お取引先様との信頼関係の確立

私たちは、お取引先様との契約を尊重し、透明性の高い公正で健全な関係を築き上げ、十分なコミュニケーションを行うことで、相互の反映を考えた取引を行うように努めます。

4. 政治・行政との健全な関係

私たちは、政治・行政との健全な関係を維持するために、法令を遵守し適切に対応します。

5. 環境保全への寄与

私たちは、環境に配慮した企業活動を行い、環境と経済が調和した持続可能な社会の構築に寄与します。

6. 情報管理について

(1) 業務情報の取扱いについて

私たちは、業務情報を法令及び社内諸規則、規定等に則り適切に保護・管理します。

(2) 情報セキュリティについて

私たちは、情報セキュリティ対策を確実に実施します。在職中に得た機密情報は退職後であっても他者に開示しません。また、利用もしません。

(3) 個人情報の取扱いについて

私たちは、個人情報保護の重要性を認識し、適切な個人情報の取得、利用及び提供を行います。

7. 輸出入管理について

私たちは、国際取引に関し、関連法令等を順守した適切な対応を行います。

8. 知的財産について

私たちは、知的財産の適切な確保・維持に努め、他社や他人の知的財産権を侵害しません。

9. 経理処理について

私たちは、法令及び社内諸規則、規定等を遵守し、事実に基づいた正しい経理処理を行います。

10. 職場環境について

私たちは、全員が協力して、働きやすい職場環境を実現します。

11. 反社会的勢力への対処

私たちは、社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力、団体に対しては、毅然とした態度で臨み、あらゆる関係を持ちません。

CSRの取り組み

倫理・コンプライアンス基本方針

当社は2008年6月に「倫理・コンプライアンス基本方針」を社内外に公開し、この基本方針に基づきCSRの取り組みを開始しました。

倫理・コンプライアンス基本方針

株式会社光学技研は、コンプライアンス（法令遵守）は当然なこととし、事業活動に伴うネガティブな影響を社会に及ぼさないよう、主体的に活動することを基本とし、次の方針に積極的に取り組みます。

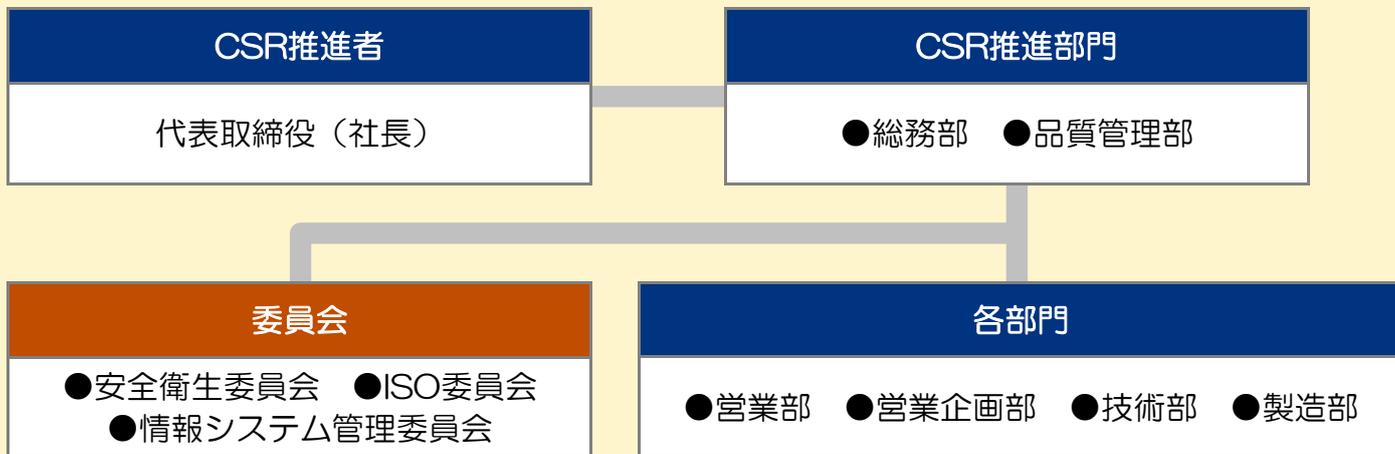
1. 汚職、恐喝、横領、あるいは不適切な利益供与・受領など、倫理やコンプライアンスに照らして問題のある活動には関与しません。
2. 法令違反、逸脱、過失等があった場合には、それを率直に認め、すみやかに是正措置と再発防止措置を講じます。
3. 企業秘密（トレードシークレット）情報の重要性を認識し、適正な管理と保護を徹底するとともに、技術・ノウハウなどの知的財産権を尊重・擁護します。
4. 利害関係者に対して企業情報を法令の定めるところに従って的確に開示します。
5. 国内外の市場において、常に公正・透明・自由な競争・取引を行います。
6. 企業活動を通じて、社会発展に寄与するとともに、地域貢献に努めます。
7. 社内体制の整備に努めるとともに、社内外を問わず、問題のある活動等について内報した者の秘密を守ります。
8. 当方針を社員に周知徹底し、倫理・コンプライアンス遵守に基づく行動に取り組みます。

— この倫理・コンプライアンス基本方針は社内外に公開します —

CSRの取り組み

CSR推進体制

当社は代表取締役(社長)をCSR推進者とし、総務部及び品質管理部をCSR推進部門として、全社的なCSR活動を展開しています。各部署での活動の他に、安全衛生委員会、情報システム管理委員会を設置してCSRの向上に努めています。



CSR教育



CSR勉強会の様子

当社では、社内でのCSR教育として、定期的(年1回程度)に勉強会を実施しています。2015年度も例年と同様、8月にCSR、営業秘密、情報セキュリティをテーマとした勉強会を行いました。従業員に対してCSR活動の周知を図り、CSRへの意識向上を図るとともに、情報を共有化することで、全社的な取り組みを推進しています。また、近年では、サイバー攻撃やサイトの改ざん、標的型攻撃メールによる情報搾取などインターネット環境での脅威が増大していますので、情報システム管理委員が社外の情報セキュリティ関係のセミナー等に参加して情報収集を積極的に行っています。その得られた情報を資料回覧などを通じて社内へ周知し、情報セキュリティの向上に努めています。

■ 品質・環境に対する取り組み

■ 品質・環境統合方針

当社は2002年3月にISO9001、2004年7月にISO14001の認証を取得しています。それ以後、品質・環境統合マネジメントシステムを構築し、ISO9001、ISO14001の認証を維持しながら品質・環境統合方針のもと、品質改善活動及び環境保全活動を進めています。

品質・環境統合方針

株式会社光学技研は、顧客要求事項を満たすために、「CO2排出量の抑制及び削減」や「生物多様性の保全」など地域及び地球の環境保全及び汚染の防止に努め、経営理念である「国内外のトップレベルの技術力」を発揮し、品質・環境に配慮した製品の提供を目指します。また、その事業活動を通じ、以下の取り組みを実施します。

1. 品質・環境統合方針を達成するために、品質及び環境の目的・目標を設定して活動し、品質及び環境のパフォーマンス向上に努め、品質・環境統合マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
2. 品質・環境に関連する法令、規制及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 次の事項を重点課題として取り組みます。
 - 1) 顧客満足の上昇
 - 2) 高品質の追求
 - 3) 利益と価値を生み出す技術力の構築
 - 4) 環境負荷低減の推進
 - 5) 化学物質管理体制の強化
4. 当社のために働くすべての人に対して、品質・環境の適切な情報を提供し、それらの教育を実施し、意識向上を図ります。
5. この品質・環境統合方針は、当社のために働くすべての人に配布して周知します。

— この品質・環境統合方針は社内外に公開します —

品質・環境に対する取り組み

事業における環境とのかかわりと環境負荷

INPUT

INPUT	INPUT	本社+長谷			単位	
		2013年度	2014年度	2015年度		
エネルギー資源(電力、化石燃料)	エネルギーなど	電力	1,345,716	1,411,090	1,390,954	kWh
		ガス	0.194	0.173	0.164	トン
		ガソリン	2.060	1.893	2.863	kL
	大気、水	水	1,266	1,073	1,139	トン
製造消耗品(原材料、資材、化学物質)	PRTR指定物質	トルエン	0.336	0.366	0.336	トン
事務用品、生活関連用品	消耗品	コピー用紙	93,500	82,500	92,000	枚

光学技研

製造部

- ・研磨加工全般
- ・光学組立、調整
- ・接着、コンタクト
- ・結晶軸出し
- ・切断、研削、自動研磨加工
- ・(受入・中間・最終)検査
- ・(手拭・自動)洗浄
- ・成膜治具入れ
- ・新規加工技術開発、製造支援
- ・製造管理業務全般
- ・製造関連品の購入
- ・供給者(取引先)
- ・請負者(外注先)
- ・成膜加工

技術部

- ・新規製品化に伴う技術開発、製造支援

総務部

- ・経理、庶務全般
- ・備品、一般消耗品購入

営業部、営業企画部

- ・営業業務全般

品質管理部

- ・品質管理
- ・ISO管理業務

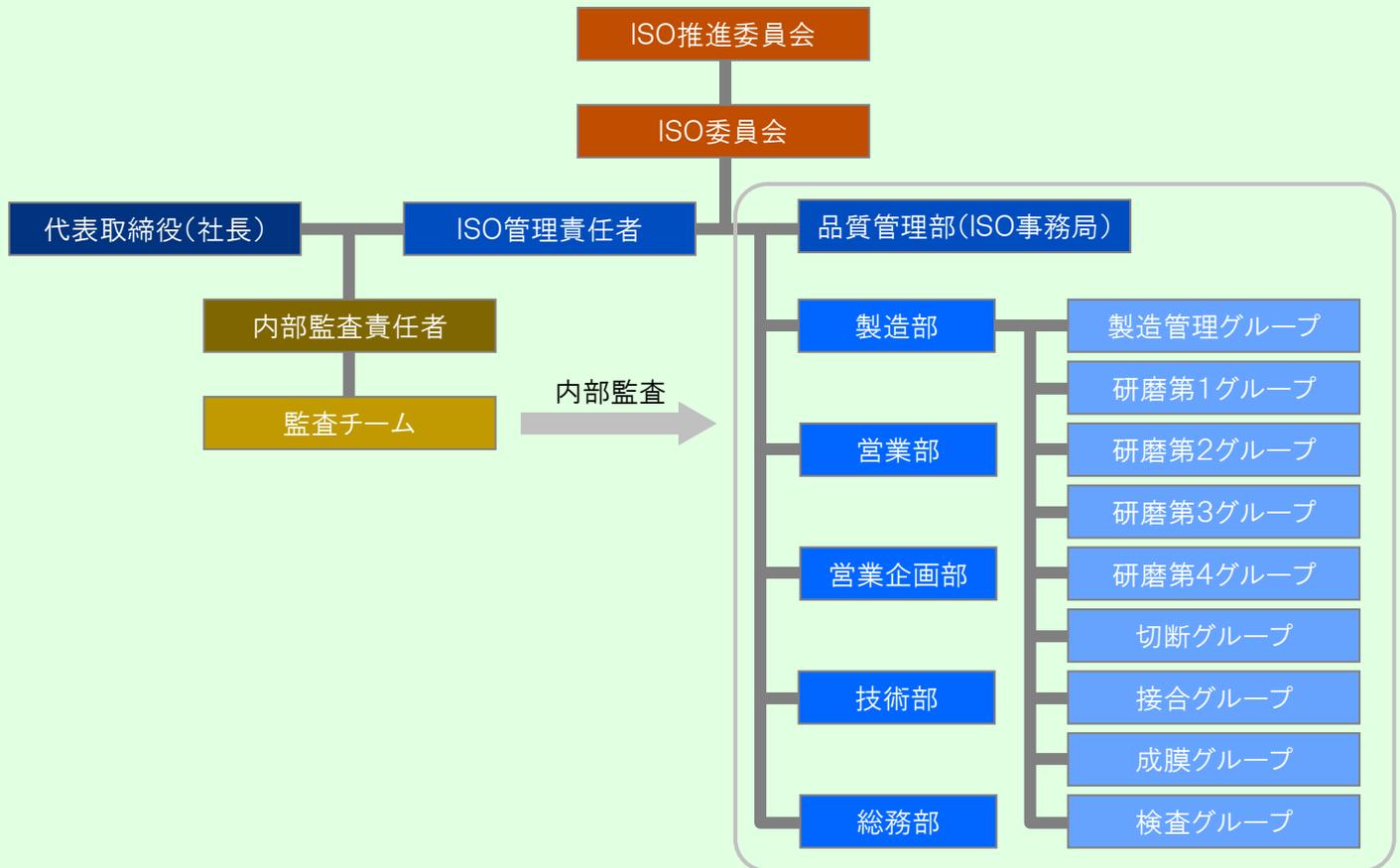
OUTPUT

OUTPUT	OUTPUT	本社+長谷			単位	製品・サービス (光学結晶、各種結晶など)
		2013年度	2014年度	2015年度		
CO2排出	電力	706.5	747.9	702.4	トン	排気(CO2、揮発有機溶剤など)
	ガス	0.58	0.52	0.49	トン	
	ガソリン	5.36	4.39	6.64	トン	
排水	研磨廃液	66.53	64.63	76.19	トン	排水(研磨廃液、一般排水など)
PRTR指定物質	トルエン	0.366	0.366	0.336	トン	廃棄物(廃砂類、ガラス類、金属類、 廃溶剤、廃機械油、一般ゴミ)
廃棄物	排出量	3.434	2.965	2.841	トン	

品質・環境に対する取り組み

品質・環境推進体制

当社はISO9001(2002年3月認証取得)及びISO14001(2004年7月認証取得)に適合した品質・環境統合マネジメントシステムを構築し、品質・環境管理活動を実施しています。この活動はISO管理責任者及び品質管理部(ISO事務局)が中心となり、各部門へ展開されます。



ISO委員会、ISO推進委員会

ISO委員会は品質・環境統合マネジメントシステムの運用についての検討及び審議を行う委員会であり、品質・環境目的及び目標の設定検討や目標の進捗状況の管理を行うため、原則として月1回定期的に開催しています。最近では、品質・環境活動だけでなく、CSRの内容を含めた活動の検討、審議を行っており、このISO委員会でCSR活動の管理も実質的に行っています。ISO委員会と同時開催される売上会議では、経営や業務上の重要事項の協議、調整が行われ、これらの会議を通じて改善のためのPDCAを回していくプロセスを確立しています。また、ISO推進委員会は主に品質・環境統合マネジメントシステムの改善に関する協議を行うための委員会です。これら委員会を含む上記組織体系により、外部環境(顧客要求事項、国内外の法規制や社会的ニーズ等)の変化に対応できる体制を整えています。

内部監査の実施

ISO9001及びISO14001の適合性、品質・環境統合マニュアル及び規程・手順書類の順守、施行状況ならびに品質・環境の目標設定、進捗、達成状況等を確認するため、内部監査を年1回以上定期的に実施しています。内部監査は内部監査責任者が中心となって計画の策定、監査チームの編成が行われ、監査チームが各部署の監査を実施します。近年、厳しさが増している製品含有化学物質管理に関しては、重点項目の1つに含めて内部監査を実施しており、法規制やお客様の要求事項への対応状況を確認しています。2015年度は以下の項目を重点項目として内部監査を実施しました。(実施日:11/10、11の2日間)

2015年度 内部監査 重点項目	(1)ISO9001、ISO14001適応状況の確認 (2)化学物質管理状況(製品含有化学物質管理含む)の確認 (3)活動結果と有効性の結びつき
------------------------	--

品質・環境に対する取り組み

2015年度 品質・環境活動の実績と今後の目標

2015年度の品質・環境活動の実績を以下に示します。2015年度は中期経営計画「Next K Plan II」の2年目にあたりますが、1年目の厳しい結果を受けて営業部門の強化を図るなど各部門で経営環境の改善に努めました。

2015年度 品質目的・目標とその達成状況

品質目標に対する評価結果としては、全社目標の2項目はともに達成となりました。部門別の項目で見ると10項目で目標達成、3項目で目標未達成となりました。

※評価結果…○：達成、×：未達成

目的		実施部門	年度	品質目標	結果
Next K Plan II (2014～2016年度) 【重要課題】 1. 基盤技術の充実と開発力の融合 2. 業務改善促進によるコスト削減 3. 保有財産の有効的活用 4. 未来志向に基づいた人材育成		全社	2015	・売上高 540百万円(税抜) ^{注1)}	○
				・次世代に向けた経営基盤の整備	○
			2014	・売上高 650百万円(税抜)	×
				・次世代に向けた経営基盤の整備	○
高品質の追求	業務改善活動の推進	製造部	2015	・業務改善提出件数 →各グループでメンバー数の1.5倍/年 以上	○
			2014	・業務改善提出件数 →各グループでメンバー数の1.0倍/年 以上	○
	不適合の最小化と人的要因ポカミスの抑制	品質管理部	2015	・重大又はその他と分類される「不具合対策書」件数 →「製造受注書」発行件数の1.5%以下	○
				ポカミス発生件数 →「製造受注書」発行件数の3%以下、 人的要因の比率 55%以下	○
			2014	・重大又はその他と分類される「不具合対策書」件数 →「製造受注書」発行件数の2%以下	○
				・ポカミス発生件数 →「製造受注書」発行件数の3%以下、 人的要因の比率 60%以下	○
利益と価値を生み出す技術力の構築	製造能力の向上	製造部	2015	・労働時間当たりの加工高率の伸び →過去3年平均の1%以上	×
			2014	・労働時間当たりの加工高率の伸び →過去3年平均の1%以上	×
	経費の効率的な支出	総務部	2015	・売上高販売管理比率 40.0%以下 ^{注1)}	○
			2014	・売上高販売管理比率 36.0%以下	×
	自社製品開発可能な体制の構築	技術部	2015	・製品提案 45件/年	○
			2014	・製品提案 45件/年	○

■ 品質・環境に対する取り組み

目的		実施部門	年度	品質目標	結果
顧客満足の上 向上	売上高増加	営業部	2015	・光通信用関連売上高：20百万円 ^{注1)}	×
				・レーザー関連売上高：200百万円 ^{注1)}	×
				・試作／その他売上高：150百万円 ^{注1)}	○
			2014	・光通信用関連売上高：10百万円	○
				・レーザー関連売上高：440百万円	×
				・試作／その他売上高：200百万円	×
		営業 企画部 <small>注3)</small>	2015	・海外：レーザー関連売上高：8百万円 ^{注2)}	○
				・国内外：CLBO結晶売上高：150百万円	○
				・海外：試作／その他売上高：12百万円 ^{注2)}	○
			2014	—	—
				—	—
				—	—
		営業部 + 営業 企画部	2015	・売上高 540百万円(税抜) ^{注1)}	○
営業部	2014	・売上高 650百万円(税抜)	×		

注1) 下期にかけて以下のように目標値修正

売上高：700百万円→540百万円、光通信用売上高：50百万円→20百万円、レーザー関連売上高：295百万円→200百万円、試作／その他売上高：155百万円→150百万円、売上高販売管理比率：32.0%以下→40.0%以下

注2) 下期にかけて以下のように目標値修正

海外：レーザー関連売上高：5百万円→8百万円、海外：試作／その他売上高：45百万円→12百万円

注3) 2015年度より新設

品質・環境に対する取り組み

2015年度 環境目的・目標とその達成状況

環境目標に対する評価結果としては、実施11部門のうち、8部門で目標達成、3部門で目標未達成となりました。昨年度と比較すると、実施部門が1部門増加して11部門となりましたが、全体的には昨年度とほぼ同様な達成度合いとなりました。

※評価結果…○：達成、×：未達成

目的		実施部門 Gr.:グループ	年度	環境目標	結果
環境負荷 低減の推進	切断加工の安定 生産	製造部 切断Gr.	2015	・大型切断機による切断加工条件の確立 Φ75 mm以上で研磨加工する材料切断の良品率 90%以上	○
	機械加工消耗品 のリユース		2014	・廃水晶のリユース…異なる製品加工への水平展開 対象:水晶センサー加工 ・廃水晶1個あたりの再利用回数1回以上	○
	研磨安定生産	製造部 研磨第1～ 第4Gr.	2015	・サファイア波長板 安定生産の確立・標準化推進 サファイアMT波長板の良品率 60%向上	○
			2014	・サファイア波長板 安定生産の確立・標準化推進 良品率調査	○
	梱包方法及び 梱包材料の選定	製造部 検査Gr.	2015	・新規洗浄機による洗浄条件の確立及び工程内良品 率の向上 (水晶素材・形状に対応した洗浄条件出し 4件以上/年)	×
			2014	・梱包資材の見直し スチロールケース及びパッキンの使用低減: 出荷件数の60%以下	○
	接合工程内検査 実施による後工程 の効率化	製造部 接合Gr.	2015	・接合工程内検査実施率 55%以上	○
			2014	・接合工程内検査実施率 50%以上	○
	作業効率の向上	製造部 成膜Gr.	2015	・製品加工における成膜テスト回数の低減 製造受注書1件あたりの成膜テスト回数 1.5回以内 ・EPD成膜装置(新規導入装置)テスト回数の調査	○
			2014	・製品加工における成膜テスト回数の低減 製造受注書1件あたりの成膜テスト回数 2.5回以内	○
	生産効率の向上	製造部 製造管理 Gr.	2015	・指定納期(顧客希望納期)からの前倒し納品件数の 調査	○
			2014	・製造起因による工程変更日数の低減 工程変更日数10日/月 以内	○
	利益率の向上	営業部	2015	・支給品による受託加工件数の増大 受注件数全体の35%以上	×
	環境配慮製品の 販売		2014	・CLBO結晶拡販 売上高: 140百万円	×

品質・環境に対する取り組み

目的		実施部門 Gr.:グループ	年度	環境目標	結果
環境負荷 低減の推進	環境配慮製品の 販売	営業 企画部 ^{注1)}	2015	・CLBO結晶拡販 売上高: 150百万円	○
			2014	—	—
	職場環境の向上	総務部	2015	・働きやすい職場環境への改善提案 3件以上/年 前年度の検討結果により、提案を実施 1件/年	○
			2014	・働きやすい職場環境への改善提案 3件以上/年	○
	エネルギーの使用 の合理化	品質 管理部	2015	・エネルギー消費原単位※を過去3年間(2012~ 2014年度)の平均値より1%以上低減する ※エネルギー消費原単位= エネルギー使用量(原油換算KL)/製造受注書発行件数	×
	CO2排出量の 抑制及び削減		2014	・「CO2排出量の抑制及び削減」又は「生物多様性の 保全」につながる環境管理活動の提案 2件以上/年 ・提案活動の総括(提案件数と実施状況)	○
生物多様性の 保全					
化学物質 管理体制 の強化	有毒物質を用い ない光学部品の 製品化	技術部	2015	・環境配慮製品の開発、リリース ・販促支援活動	○
	一般的に有毒物 質を用いている光 学部品と同等の 性能を持ち有毒 物質を使用しない 製品の開発		2014	・環境配慮製品の開発・リリース ・販促活動支援	×

注1)2015年度より新設

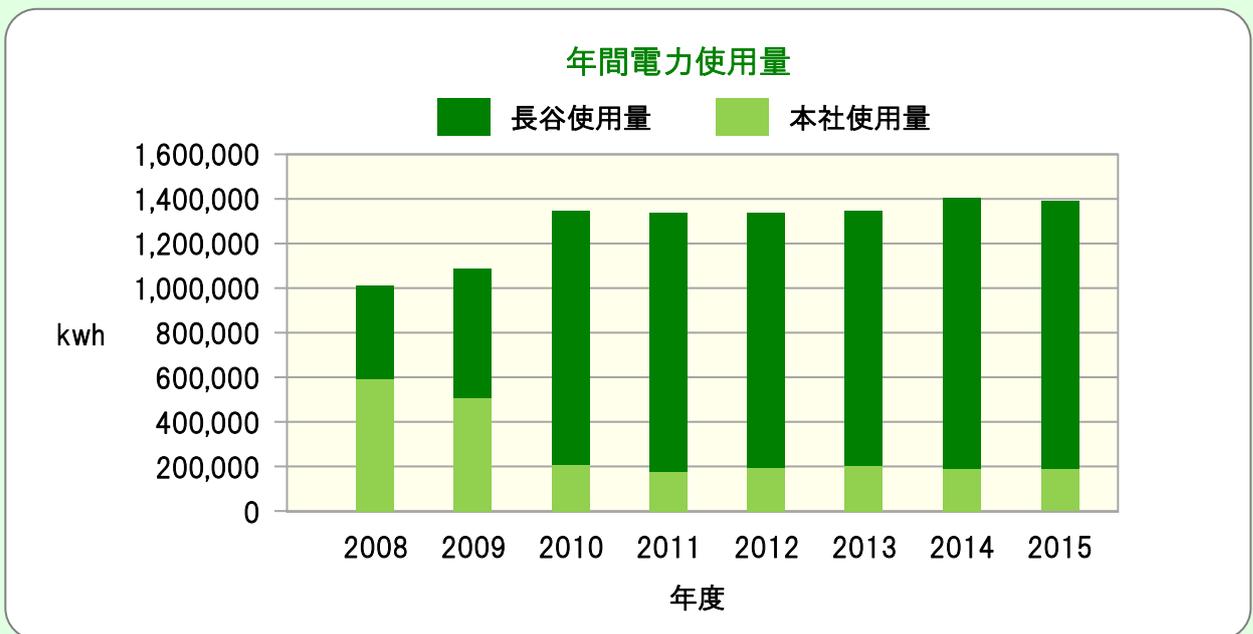
品質・環境に対する取り組み

2015年度環境維持活動の実施状況

電力及びコピー用紙の使用量、廃棄物及び研磨廃液排出量に関しては、数年前より維持管理項目として削減活動行ってきました。当社はエネルギー使用量(原油換算値)が1500kl/年未満であるため、省エネ法に基づく特定事業者には該当しませんが、2014年度途中から省エネ法を法的要求事項とし、エネルギー使用量の削減活動強化を図っています。今後も省エネ法で定められた義務を果たし、できる限り環境負荷低減を実現できるよう、努力していきたいと考えています。

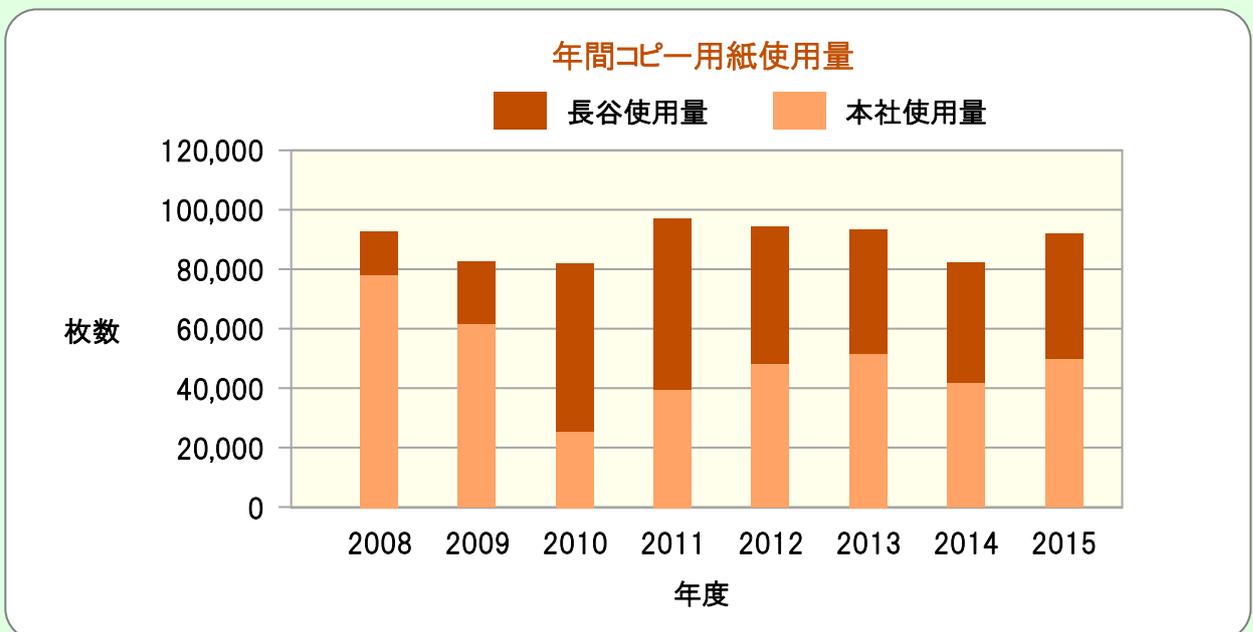
(1)電力使用量の推移

過去8年間の電力使用量の推移を以下に示します。2010年度以降は、長谷研究開発センターの本格稼働により電力使用量が2009年度以前よりも増加しましたが、それ以降の全社使用量は、ほぼ横ばいで推移しています。2016年度もこの水準以下となるよう電力使用量の抑制に取り組んでいきます。



(2)コピー用紙使用量の推移

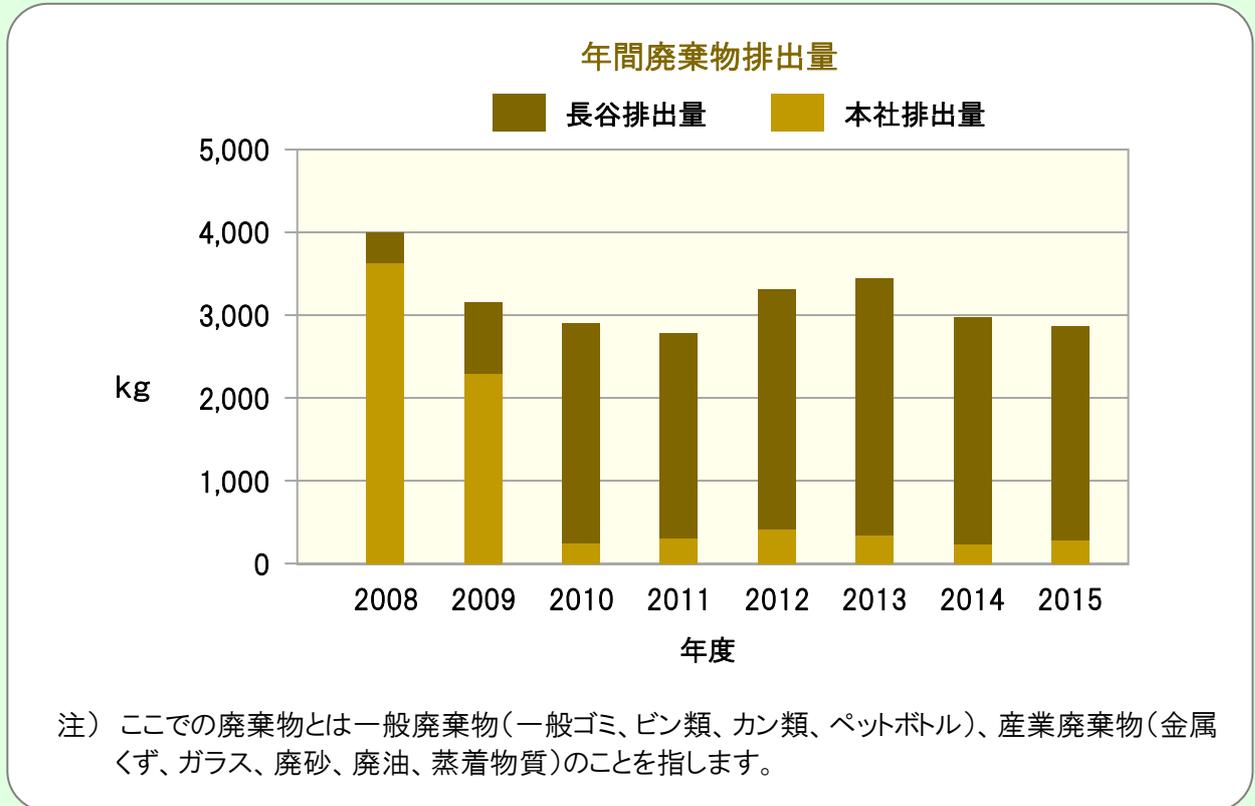
過去8年間のコピー用紙使用量の推移を以下に示します。2015年度は、前年度よりも使用量が増加しましたが、維持管理基準値以下の目標レベルは達成しました。来年度も引き続き、目標レベルを達成できるよう削減活動の取り組みを実施していきたいと考えています。



品質・環境に対する取り組み

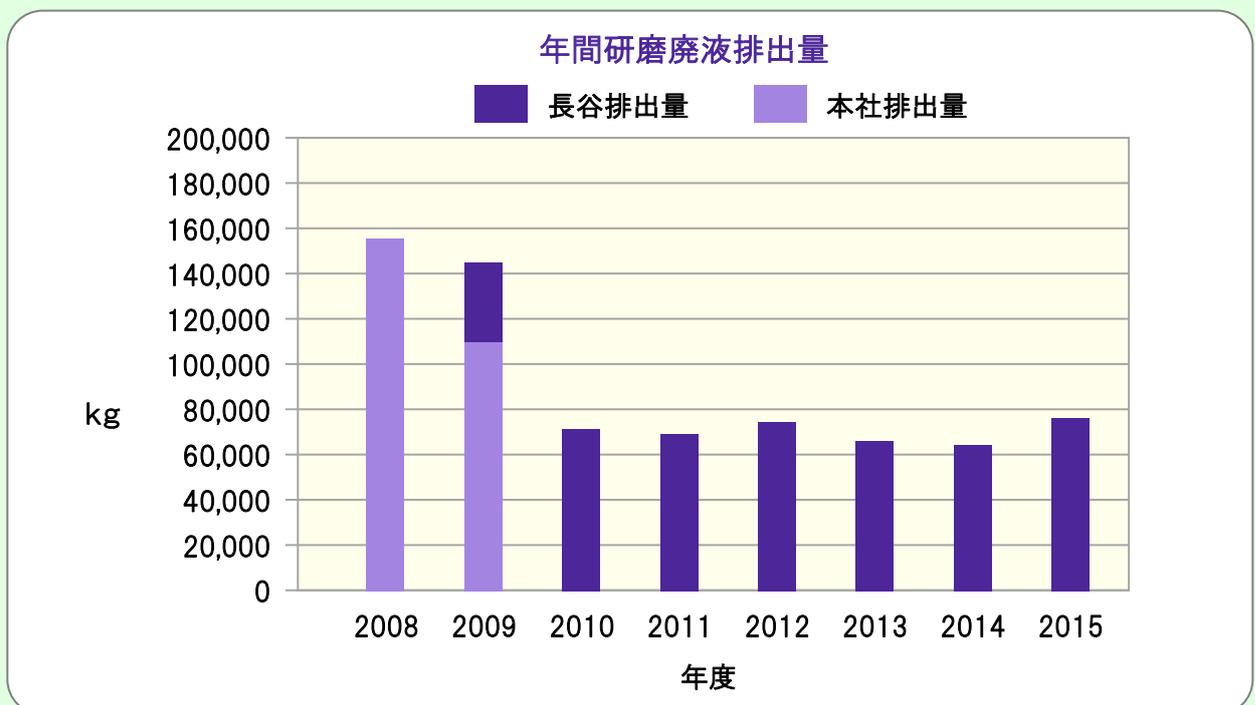
(3) 廃棄物排出量の推移

過去8年間の廃棄物排出量の推移を以下に示します。2015年度は、前年度と同様に排出量を3,000kg未満に抑えることができ、良好な結果となりました。今後も適切に環境維持活動を実施し、現在のレベルを維持できるよう努力していきます。



(4) 研磨廃液排出量の推移

過去8年間の研磨廃液排出量の推移を以下に示します。2015年度は、ここ数年では少し多めの排出量となりました。2016年度は研磨廃液排出量がこれ以上増加しないよう努め、生産効率を向上させることによって可能な限り排出量を抑制していきたいと考えています。



品質・環境に対する取り組み

2016年度 品質目的・目標

「Next K Plan II」の最終年度となる2016年度の品質目的・目標を以下の表に示します。「Next K Plan II」は2014～2016年度の3年間の中期経営計画でしたが、残念ながら1～2年目の結果は売上高目標を達成することができませんでした。この結果を真摯に受け止め、社内外の環境を慎重に見極めたうえで3年目の目標設定を行いました。過去2年間の反省点を踏まえながら、確実に3年目の目標を達成できるよう、取り組んでいきたいと考えております。

目的		実施部門	2016年度 品質目標
Next K Plan II (2014～2016年度) 【重要課題】 1. 基盤技術の充実と開発力の融合 2. 業務改善促進によるコスト削減 3. 保有財産の有効的活用 4. 未来志向に基づいた人材育成		全社	・売上高 650百万円(税抜) ・次世代に向けた経営基盤の整備 a) 厚みのある人材構成の確立 b) 設備の早期有効活用
高品質の追求	業務改善活動の推進	製造部	・業務改善提出件数 →各グループでメンバー数の2.0倍/年 以上
	不適合の最小化と人的要因ポカミスの抑制	品質管理部	・重大又はその他と分類される「不具合対策書」件数 →「製造受注書」発行件数の1%以下 ・ポカミス発生件数 →「製造受注書」発行件数の3%以下、 人的要因の比率 50%以下
利益と価値を生み出す技術力の構築	製造能力の向上	製造部	・労働時間当たりの加工高率の伸び →過去3年平均の5%以上
	経費の効率的な支出	総務部	・売上高販売管理比率 39.0%以下
	自社製品開発可能な体制の構築	技術部	・製品提案 45件/年
顧客満足の向上	売上高増加	営業部	・売上高 440百万円(税抜) ①光通信売上高(国内) 10百万円 ②レーザー関連売上高(国内) 270百万円 ③試作/その他(国内) 160百万円
		営業企画部	・売上高 210百万円(税抜) ①レーザー関連売上高(海外) 10百万円 ②CLBO結晶売上高(国内・海外) 180百万円 ③試作/その他 売上高(海外) 20百万円

■ 品質・環境に対する取り組み

2016年度 環境目的・目標

2016年度の環境目的及び目標を以下の表に示します。当社では基本的に3ヶ年計画でテーマを設定し、環境活動を行っています。2016年度は全11部門のうち、1部門が新規テーマで活動を開始しました。環境面における「Next K Plan II」の2年目までの結果としては、概ね計画通り進めることができていると思われるので、最終年度となる2016年度もこの傾向を維持し、できるだけ多くの部門で目標を達成していきたいと考えています。

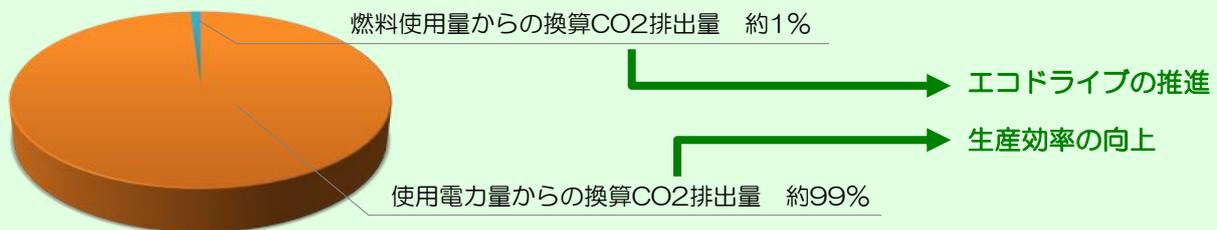
目的		実施部門 Gr.:グループ	2016年度 環境目標
環境負荷 低減の推進	切断加工の安定 生産	製造部 切断Gr.	・丸目加工の効率化 丸目工程の時間短縮案提出(1件以上/2か月)
	研磨安定生産	製造部 研磨第1～ 第4Gr.	・サファイア波長板 安定生産の確立・標準化推進 サファイアMT波長板の良品率 66%以上 (対2014～2015年度比 10%向上)
	洗浄機の使用による 効率化	製造部 検査Gr.	・新規洗浄機による洗浄条件の確立 (新規溶剤と超音波の選定とまとめ)
	接合工程内検査実 施による後工程の効 率化	製造部 接合Gr.	・接合工程内検査実施率 60%以上
	作業効率の向上	製造部 成膜Gr.	・EPD成膜装置のテスト回数低減(成膜テスト回数2回以内)及び EPD成膜装置による製品加工率 5%以上
	生産効率の向上	製造部 製造管理Gr.	・指定納期(顧客希望納期)からの加工日数3日以上短縮による 前倒し納品件数 7件/月 以上
	利益率の向上	営業部	・支給品による受託加工件数の増大 受注件数全体の35%以上
	環境配慮製品の 販売	営業企画部	・CLBO結晶拡販 売上高: 180百万円
	職場環境の向上	総務部	・働きやすい職場環境への改善提案 3件以上/年 前年度の検討結果により、提案を実施 1件/年
エネルギーの使用の 合理化	品質管理部	・エネルギー消費原単位※を過去3年間(2013～2015年度)の平 均値より1%以上低減する ※エネルギー消費原単位= エネルギー使用量(原油換算KL)/製造受注書発行件数	
化学物質 管理体制 の強化	技術部	・環境配慮製品の改良 ・販促支援	
	有毒物質を用いない 光学部品の製品化		
	一般的に有毒物質を 用いている光学部品 と同等の性能を持ち 有毒物質を使用しな い製品の開発		

品質・環境に対する取り組み

CO2排出量抑制、生物多様性保全の取り組み

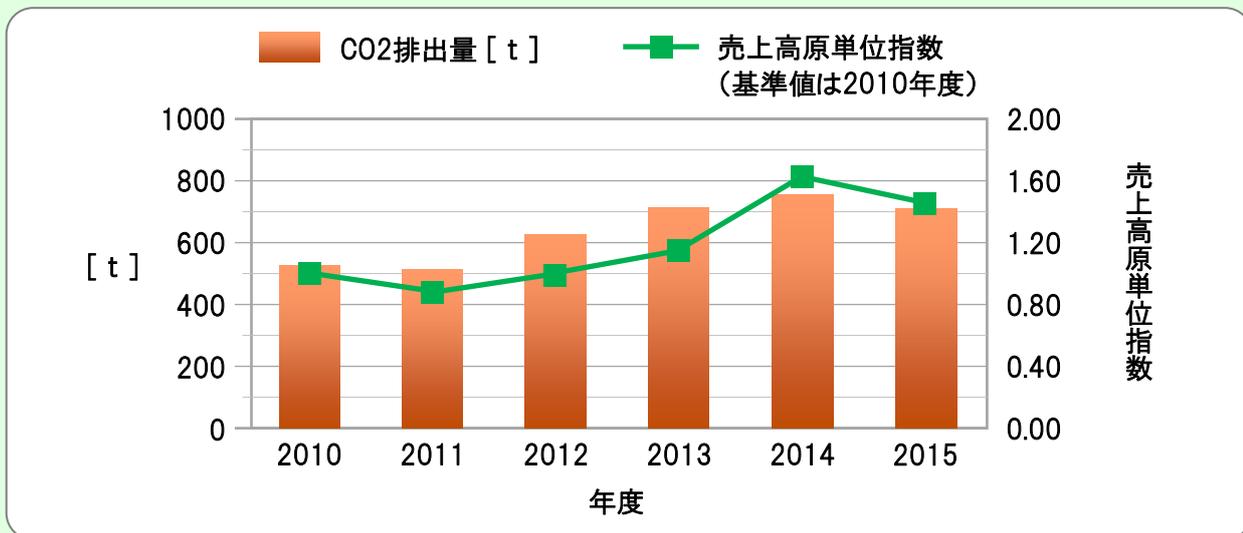
当社ではCO2排出量抑制及び生物多様性保全の取り組みとして、これまでに環境目標及び維持管理に基づいた活動の他にサンパチェンス(従来の園芸植物よりもNO2、ホルムアルデヒド、CO2の高い吸収能力を有する環境浄化植物)の栽培や社用車のエコドライブの推進を図ってきました。2015年度は、昨年度に引き続き社用車で利用しているトヨタレンタリースの「ECOドライブサポートキャンペーン」に参加し、従業員に対してエコドライブの協力を要請するとともに、省エネの具体的な数値目標を設定してエネルギー使用量を抑えることによりCO2排出量の抑制に努めました。当社の事業におけるCO2の発生は、主に事業所内で使用している電力由来のものがほとんどであり、この使用電力をいかに抑えるかが課題となっています。売上高に対するエネルギー使用量を可能な限り抑制できるように生産効率を向上させていきたいと考えております。また、生物多様性保全に関しては、当社所在地である神奈川県厚木市の取り組み(生物多様性あつぎ戦略)を従業員に紹介し、身近な部分から理解を深めて意識を高めることができるよう周知活動を行いました。

2015年度 換算CO2排出量の内訳



CO2排出量

CO2排出量に関しては、2010年度よりCO2排出量の把握を開始し、2010年度の排出量を基準値とした2015年度までの推移は下表に示した通りです。2015年度は、前年度に比べCO2排出量の減少と売上高微増のため原単位指数が約0.17低下し、ここ数年続いていた指数の上昇を減少に転じることができました。2016年度は、引き続き電力使用量の抑制と売上高の増加を図り、売上高原単位指数をさらに減少させたいと考えております。



CO2排出量削減・生物多様性保全の取り組み状況

各部門の環境目標	水、エネルギー(電気、ガソリン、ガス)使用量削減 廃棄物の削減	生物多様性保全の取り組み	環境法規制の遵守
達成: 8部門 未達成: 3部門	水: ×前年度比 1.06%増加 ▲ 電気: ○前年度比 1.4%削減 ▼ ガソリン: ×前年度比 51.2%増加 ▲ ガス: ○前年度比 5.4%削減 ▼ 廃棄物: ○前年度比 4.2%削減 ▼	「生物多様性あつぎ戦略」の周知による啓蒙活動	○違法行為等なし

■労働安全衛生・人権に対する取り組み

■労働安全衛生方針

当社は2008年6月に労働安全衛生方針を社内外に公開し、その方針のもと様々な取り組みを行っています。従業員の健康増進と職場の安全確保、環境改善を推進するため、安全衛生委員会が中心となって積極的な活動を行っています。

労働安全衛生方針

光学技研は、安全確保が人間尊重の全ての活動に優先するものであり、健康が企業活力の基本であると認識し、次の方針を定めます。

1. 職場における労働安全衛生に関する危険（リスク）要因を除去し、快適な職場作りに努め、心身ともに健康の保持増進に努めます。なお、こうした危険要因が完全に除去しきれない場合には、適切な保護用品を提供します。
2. 職場に設置されている機械装置の安全対策を図るとともに、適正にメンテナンスを行います。
3. 労働安全衛生に関する法令及び当社が同意したその他の要求事項、ならびに社内規程を遵守します。
4. 緊急災害時には、社内で定めたルールに基づき、社員の安全を第一とした緊急対応策を取るとともに、緊急災害に備えた教育訓練を実施します。
5. 社員の安全をはかるなど労働災害の防止に努めますが、その発生時には状況を把握し、必要に応じた治療等を提供するとともに、労働基準監督署への報告、さらなる防止策などの是正措置を講じます。
6. 社員が身体的な負荷を過重にかかるような業務がある場合には、その状況を把握し、改善を行います。
7. 社内のトイレ、食堂その他の設備を常に清潔に維持するとともに、社内の安全確保、職場における適切なスペースの確保に努めます。
8. 当方針は全社員に周知徹底し、安全衛生意識の高揚をはかります。

— この労働安全衛生方針は社内外に公開します —

■労働安全衛生・人権に対する取り組み

安全衛生活動の推進

当社は日々の安全衛生活動を推進するため、月次で安全衛生委員会を開催し、労働災害の状況、健康診断の結果報告、日常安全活動のための協議・勉強会等を行っています。2015年度は、「みんなで目指そうゼロ災害 みんなで築こう快適職場」をスローガンに掲げ、ここ数年定例で行っている各職場への安全衛生パトロール(10月)の他に、一般財団法人神奈川県社会保険協会から講師の先生を招き、「職場におけるメンタルヘルス」の講習会(2月)を実施しました。また、外部の労働安全衛生に関するセミナー等で入手した情報(法規制の最新情報や安全な職場づくり、リスクアセスメント実施に関する参考情報など)を委員会内の勉強会のテーマとして社内への周知を図るとともに、安全衛生活動の発展に活かしました。

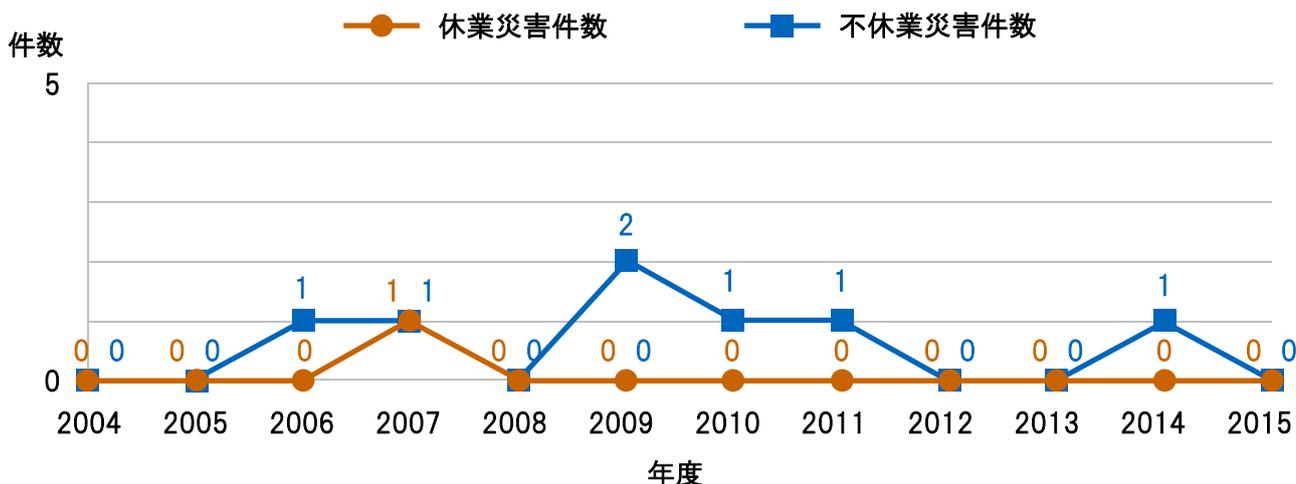
2015年度 安全衛生活動スローガン
「みんなで目指そうゼロ災害 みんなで築こう快適職場」

2015年度の活動実績
■安全衛生パトロールと是正処置の実施
■メンタルヘルス講習会の実施
■作業環境測定の実施(1回/6か月)
■定期健康診断、有機溶剤健康診断、電離放射線健康診断の実施
■人間ドック、脳ドック、インフルエンザ予防接種受診の推奨 ※人間ドック受診者数:23名(全従業員の約40%) ※脳ドック受診者数:1名(全従業員の約2%)
■「平成26年度労働安全衛生研究セミナー」の受講内容勉強会の実施 ・『化学設備等における非定常作業の安全に関する調査研究結果報告』 ・『熱中症予防対策のためのリスクアセスメントマニュアル』 ・『安全な職場づくりのためのコミュニケーション事例集』
■リスクアセスメントの検討



昨年に引き続き医療法人弘徳会 愛光病院の大高先生を弊社にお招きして、管理職社員を対象に「職場におけるメンタルヘルス～リーダー・管理職としての心得～」の講習会を開催致しました。(2016年2月4日)

労働災害件数の推移



■労働安全衛生・人権に対する取り組み

■人事基本方針

当社は基本的人権を尊重し、以下の人事基本方針を定めています。2008年6月にこの人事基本方針を社内外に公開しました。

人事基本方針

株式会社光学技研は、国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、人間尊重の経営を行うことを基本とし、次の方針を定めます。

1. 社員一人ひとりの人格、個性、人権を尊重し、多様な能力に応じた雇用、能力開発、昇進の機会を公平に提供し、安全で働きやすい環境を確保します。
2. 製品またはサービスを提供するにあたり、いかなる種類の労働強制を用いませぬ。
3. 労働法に則ってその最低年齢規定を遵守し、児童労働を用いませぬ。
4. 性別、人種、年齢、国籍、民族、身体障害などの業務遂行に直接関係のない非合理的な理由に基づく差別をしませぬ。
5. 社員に対する非人道的な扱いを絶対に起こさないようにします。
6. 賃金関連法を遵守するとともに、労働法に則って労働者の権利を尊重します。

— この人事基本方針は社内外に公開します —

働きやすい職場づくり

当社は2008年12月に「神奈川県子ども・子育て支援推進事業者」の認証を取得して以降、子育て支援の具体的な行動計画を策定し、その計画に沿った取り組みを継続的に実施してきました。この取り組みを通じて社員の子育て支援を積極的に行うとともに、有給休暇の取得率向上や所定外労働時間の縮小を図り、労働条件を整備するといった基本的な取り組みを充実させて働きやすい環境の構築を目指しております。当社は全従業員のうち女性パート社員が約20%を占めており、子育てしながらでも安心して働くことができる職場を今後も提供していきたいと考えています。



■ 化学物質管理に対する取り組み

当社は品質・環境統合方針の中で「化学物質管理体制の強化」を重点項目として掲げています。その方針に基づき、統合マネジメントシステムにより、化学物質関連の法規制やお客様の製品含有化学物質管理に関する要求事項に対応しております。化学物質管理は製品の安全性、環境保全ならびに従業員の労働安全衛生にも密接に関連していますので、今後も引き続き各工程での管理体制の強化に努めていきたいと考えています。

化学物質の管理

化学物質管理に関しては、社内の各規程、手順書等に基づき確実に実施しております。特に製品含有化学物質管理については、「製品含有化学物質管理規程」を定めて重点的に取り組んでおり、内部監査において管理状況を確認しています。自社製品に関しても「自社製品含有化学物質取扱手順書」に基づき、設計開発段階において当社が定める使用禁止、使用制限物質の含有量を調査し、それら化学物質の含有情報を一元管理することで、いつでも開示できる体制を整えています。

製造工程で使用する化学物質については、原則としてSDS(MSDS)を入手し、成分情報等を把握するとともに、必要に応じて含有化学物質の調査や化学物質リスクアセスメントを実施しています。当社の場合は、結晶等の加工がメインとなりますので、素材や研磨剤、洗浄用の溶剤、接着剤等の含有化学物質管理に対して細心の注意を払い、RoHS指令をはじめとする法規制の使用禁止物質の混入防止に努めています。また、製造現場での安全面、環境面を向上させるためにも化学物質管理を適切に行うことは重要であり、今後もこの取り組みを継続して参ります。

■ 2015年度内部監査(製品含有化学物質管理に関する事項)
 年度目標: 法規制対象化学物質から選択した化学物質について廃止及び削減を行う。
 指定物質: RoHS指令6物質中のPBB、PBDEの2物質
 (2014年度の監査で未対象の2物質)
 範囲: 昨年度の売上高上位5社の製品から各社の代表製品をランダムにて選択
 結果: 上記2物質の含有なしと製造工程内での混入等なしを確認

法規制、お客様の要求事項、CSR調達への対応

当社はRoHS指令、REACH規則などの法規制や、お客様からの製品含有化学物質に関する要求事項、CSR調達の要求に対して、可能な限り迅速な対応が行えるよう社内の管理体制を整備しています。RoHS指令6物質(カドミウム、鉛、六価クロム、水銀、PBBs、PBDEs)をはじめ、REACH規則の高懸念物質(SVHC)、お客様の要求事項で禁止物質と指定されている化学物質に関しては、対象製品からの排除及び含有量の把握に努め、必要な情報をお客様へ提供しております。また、米国の紛争鉱物開示規正についても、当社は直接の対象企業とはなっていませんが、お客様からご要望に応じて取引先への調査を実施し、最大限の協力を行っています。

過去4年間の製品含有化学物質に関するお客様からの調査依頼件数と回答実績は下表に示した通りです。2015年度の期限内回答率は91%でした。

年度	製品含有化学物質に関する調査依頼件数 (紛争鉱物調査含む)	回答件数		期限内回答率 実績(目標)
		期限内	期限超過	
2015	11件	10件	1件	91%(100%)
2014	14件	14件	0件	100%(100%)
2013	21件	20件	1件	95%(100%)
2012	13件	10件	3件	77%(100%)

環境面に配慮した製品の開発、販売促進

当社では、これまでに環境面に配慮した製品としてRoHS指令対応の大口径光アイソレータや小型の偏光無依存型光アイソレータの開発を行っており、さらにここ数年はCLBO結晶を環境配慮製品と位置づけて、その販売を促進しています。2015年度も引き続き環境配慮製品として、CLBO結晶の拡販に努めるとともに、有毒物質を用いない光学部品「中赤外用位相子」の開発・リリースを目指して活動を行いました。



CLBO素子

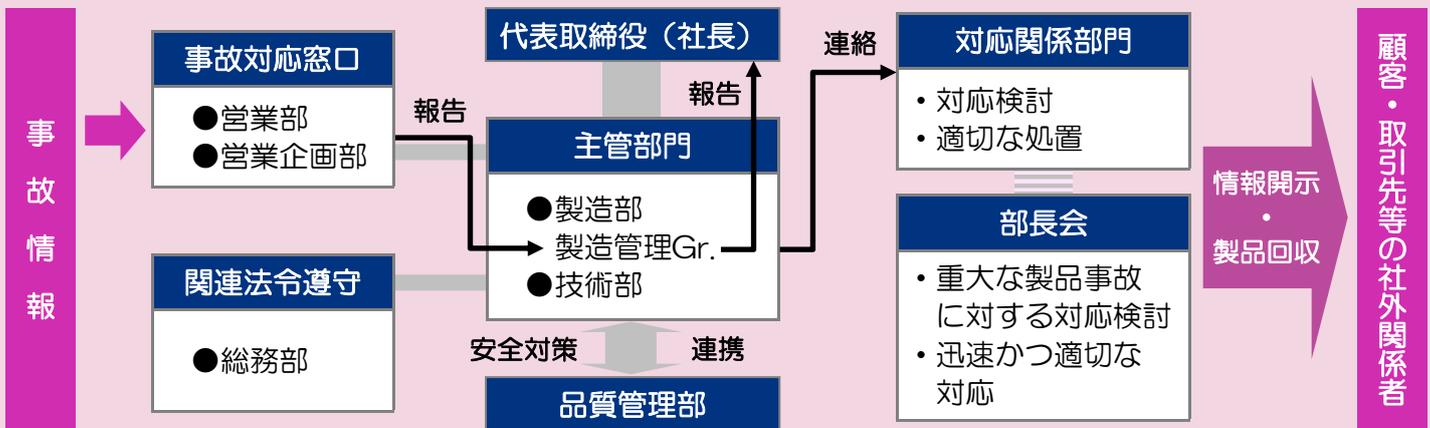
CLBO結晶は高出力の紫外線レーザーを発生させる波長変換素子であり、これを光源に利用することで、レーザー加工機装置の小型化と加工技術の高精度化が可能となります。加工技術の高精度化は、最終的に電子電気機器の小型化・軽量化に寄与しますので、今後も素子の高精度加工技術を活かした魅力的な製品を提供し、レーザー加工技術の発展に寄与していきたいと考えています。

製品・サービスの品質と安全、情報セキュリティ

当社は経営理念及び行動規範に基づいて、お客様へ高品質で信頼性の高い製品・サービスを提供するとともに、製品安全の確保に努めております。また、情報セキュリティに関してもお客様の機密情報などが漏洩することがないように管理を徹底し、秘密保持体制を構築しています。

品質管理、安全管理のための方針と体制

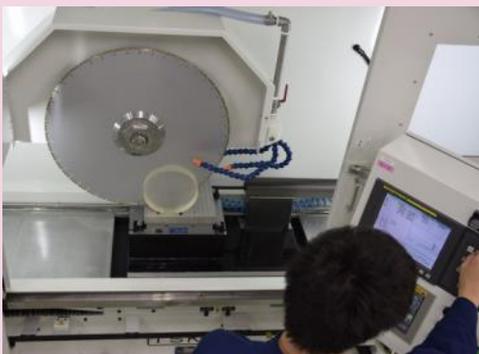
当社はISO9001を2002年3月に認証取得して以降、品質マネジメントシステムを構築し、品質管理体制の強化を図ってまいりました。お客様に高品質な製品を提供するためには、最先端の測定設備及び各種測定機器による品質保証活動が必須であり、それを実現することが当社の強みと考えています。既存の技術に満足することなく、高精度加工技術をさらに高めて、品質の向上を追求し、お客様に満足していただける製品を提供し続けたいと考えております。また、安全管理については、「製品安全管理 標準」を定め、製品の安全確保のための体制を整えています。これまでに製品事故など安全に関わる問題は発生したことはなく、2015年度も問題発生はありませんでした。2016年度も引き続き発生ゼロを維持していきたいと考えています。万が一、製品事故などが発生した際には、下図のような体制により、速やかな情報収集と適切な処置を実施し、再発防止の徹底と信頼性の向上に努めていきます。



情報セキュリティ

当社は研究開発向け試作加工を主体としていますので、お客様の機密情報を扱うことが多くなります。そのため、情報管理を重視した経営を創業時から行っており、情報漏洩が起こらないような様々な取り組みを実施しています。社内において、「企業秘密管理規程」及び「情報システム管理規程」を定め、情報セキュリティ体制を整備するとともに、従業員に対して規程・ルールを勉強会及び回覧等により浸透させることで情報セキュリティ事故の発生防止に努めています。さらに2016年1月よりマイナンバー制度がスタートしたことを受けて、新たに「特定個人情報取扱規程」を策定しました。この規程に基づき従業員の個人情報に関しても従来以上に管理を厳重にし、漏洩事故が発生しないよう努めてまいります。当社ではこれまでに情報漏洩などの問題は発生していませんが、インターネット上の脅威が年々増大していることを踏まえ、リスクへの適切な対策を実施し、今後も情報管理の強化を図っていきたくと考えています。

加工・測定環境の整備とサービス・品質保証による高付加価値



大型外周刃スライサー

当社は、素材評価からコーティングまでの社内一貫生産体制による高精度で高付加価値な加工を行っています。2014年度には、新たに大型外周刃スライサー(左写真)、12インチ対応レーザー干渉計を導入し、大きいサイズの素材にも対応できるようにするなど、これまで設備、高精度計測機器等の充実を図ってまいりました。今後も市場のニーズ、業界の動向などの変化に対応し、高精度加工・測定評価環境の整備を進めていきたいと考えています。また、当社は徹底した秘密保持体制のもと、光学特性評価による品質保証や加工工程の履歴管理、ご支給材の取り位置、素子番号管理などにも力を入れて取り組んでおります。このきめ細かいサービスを「高付加価値」としてお客様へ提供し、試作加工メーカーとしてのオンリーワンを目指して進化できるよう挑戦し続けます。

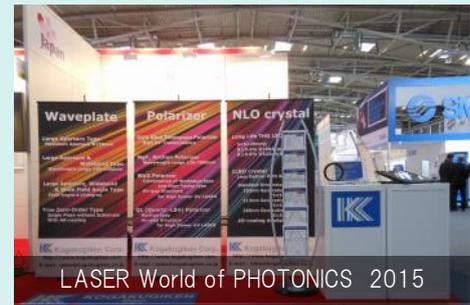
社会とのかかわり

当社は神奈川県厚木市に移転してから30年が経過し、地域社会の支えのもとに発展することができたと感じています。当社としても地域社会への貢献を重視しており、これまでに地元学生のインターンシップ受け入れや、周辺地域の企業、学生(大学生、高校生)に対して会社見学会を実施してきました。今後も地域社会とのコミュニケーションを大切に、企業としての社会的責任を果たすとともに、事業を通じた社会貢献活動を幅広く実施することで地域の発展に寄与できるよう取り組んでまいります。

国内外の展示会への出展状況

当社製品や技術を紹介し、理解を深めて広く知っていただくために国内外の展示会に出展しています。2015年度の出展状況は下表の通りです。

2015年度の展示会出展状況
■ 2015年4月22日～24日 「LASER EXPO 2015」 (パシフィコ横浜)
■ 2015年6月22日～25日 「LASER World of PHOTONICS 2015」 (ドイツ・ミュンヘン)
■ 2015年10月28日～30日 「OPJ EXPO 2015(日本光学会年次学術講演会附設展示会)」 (筑波大学 東京キャンパス文京校舎)
■ 2016年2月16日～18日 「Photonics West 2016」 (アメリカ・サンフランシスコ)



CLASP(国際共同観測ロケット実験)への協力

Chromospheric Lyman-Alpha SpectroPolarimeter(クラスプ、CLASP)は、ロケットに観測装置を載せて大気圏の外まで飛ばし、落ちてくるわずかな時間に太陽を観測する実験です。この実験は日米を中心としたスペイン、ノルウェー、フランスが参加した国際共同観測ロケット実験で、当社の真空紫外用波長板が観測装置の光学系に使用されています。この度、国立天文台様よりこのお話をいただき、当社製品が採用されたことを喜ばしく思うとともに、実験の成功をお祈りしていましたが、2015年米国・ニューメキシコ州のホワイトサンズにて現地時間9月3日午前11時1分(日本時間9月4日午前2時1分)にCLASPを打ち上げ、約5分間の観測が無事行われたとの報告を受けました。今回の打ち上げでは、ロケット、観測装置の全てが上手く動作・機能し、非常に良好なデータが取れたということで、当社の真空紫外用波長板が観測に貢献できたことを大変光栄に思っております。データの詳細な解析により素晴らしい成果が得られることを期待しております。

CLASPの国際協力体制

日本: カセグレン望遠鏡、ライマン α 線用ポーラリメーター(波長板、偏光解析素子、高精度波長板駆動機構)、モニター光学系、観測装置主構造

アメリカ: 観測ロケット、打ち上げ、搭載科学コンピュータ、CCDカメラ3台
スペイン: ハンレ効果のモデル計算
ノルウェー: 彩層大気構造モデル計算
フランス: 回折格子

その他の活動

当社は地元自治会への協力や長谷事業所における「厚木流通センターまちづくり協議会」への参加等を通じて周辺地域との交流を深めるとともに、当社の岡田がATSUMO(あつぎものづくりプロジェクト)の産学公連携担当理事や、神奈川県産業技術交流協会(神産協)の会員企業として過去に会長職を務めるなど、地元神奈川県産業振興のために様々な協力を行っています。また、身近な社会貢献活動として使用済み切手とエコキャップの回収・寄付活動を継続して行っています。2015年度も社員らの協力により、多くの使用済み切手とエコキャップを回収することができました。